

群 教 セ	G14 - 01
	平17.228集

教科等で学んだことを関連付けることのできる児童の育成

総合的な学習の時間に教科等の知識や技能を 思い出す活動を取り入れて

特別研修員 萩原 葉子 (桐生市立桜木小学校)

（研究の概要）

本研究は、総合的な学習の時間において、教科等で学んだことと総合的な学習の活動を関連付けることで、教科等の知識や技能を総合的な学習に生かしていこうとする児童の育成を目指す実践的研究である。具体的には、教科等の知識や技能を思い出す活動を取り入れ、どの学習過程で使えそうかを考えて学習計画を立てる。そして、その知識や技能を使いながら課題追究を行い、振り返りの中で意識させるという活動を行った。

キーワード 【総合的な学習の時間—小 教科との関連 知識や技能 食育】

主題設定の理由

現代は、変化の激しい先行き不透明な時代と言われる。そのような社会において、これからの子どもたちに必要とされるのが自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」と言われている。

「生きる力」は全教育課程ではくむものであるが、総合的な学習の時間(以下、総合的な学習)が核となってはくむものとする。それは、学習指導要領の総則における総合的な学習のねらいからも言えることである。

そして、平成15年度の学習指導要領の一部改正では、「各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。」というねらいが付け加えられた。つまり、教科等を通して育成された資質や能力は、個々ばらばらのままではなく、一体化・統合化され、総合的な学習の問題解決に用いられるし、総合的な学習で身に付けた知識や技能は、教科等に生かされるという相互関係を一層充実させていかななくてはならないということである。

本校の児童の総合的な学習での様子を見ると、意欲的に取り組み、総合的な学習を楽しんでいる児童が多い。しかし、教科等で学んだ知識や技能が定着していない、あるいはその場だけの、その教科だけの知識や技能で終わっていて活用できていない傾向が見られる。また、教科等で身に

付けた知識や技能を総合的な学習の中で活用しようという意識に欠け、活用できるということにさえ気付いていない児童も見られる。それは、教科等で身に付けた知識や技能を明確にする場を設けていなかったり、総合的な学習や実生活に活用できることに気付くような支援をしていなかったりするなどの問題点があるためと考えられる。

そこで、教科等で身に付けた知識や技能のどの部分が総合的な学習とかわるのか児童自ら気付くような手だて、課題追究やまとめの途中でつまづいている児童がその方法や教科等の知識や技能を思い起こすことができる手だてを投入することが、総合的に自分のもっている知識や技能を働かせることのできる児童を育成するために有効であると考えた。

具体的には、課題設定の過程で単元に関係する教科等の学習内容を思い出す活動を行うことにより、自分のもっている知識や技能に気付き、それらを使って課題解決をしようという意識を高めることができると考えた。また、課題追究・まとめるの過程では、教科等の中で追究方法やまとめる方法にかかわる知識や技能をシートを用いて思い出す活動を取り入れることにより、自分なりに解決するための方法を見付け、意欲的に課題追究やまとめる活動に取り組めるであろうと考えた。

以上のことから、教科等の知識や技能を思い出す活動を取り入れれば、教科等で学んだことを総

合的な学習において効果的に関連付けて学習することができ、身に付けた知識や技能を教科の枠を超えて生かしていこうとする児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間において、教科等の知識や技能を思い出す活動を取り入れることで、教科等で学んだことを関連付けて学習できる児童が育成されることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 課題設定の過程において、テーマにかかわる教科等で身に付けた知識や技能を思い出す活動を取り入れることにより、自分のもっている知識や技能に気づき、課題解決への見通しをもつことができるであろう。
- 2 課題追究の過程において、課題追究にかかわる既習の学び方を思い出す活動を取り入れることにより、多様な追究方法から自分なりの方法を見付け、主体的に課題追究ができるであろう。
- 3 まとめるの過程において、教科等ではくぐんだどの知識や技能を用いたのかを思い出す活動を取り入れることにより、それらを進んで総合的な学習で生かしていこうとする態度を育成することができるであろう。

研究の内容と方法

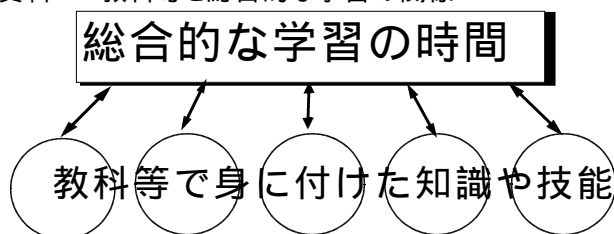
1 研究の内容

(1) 「教科等で学んだことを関連付けることのできる児童」とは

教科等で学んだことを関連付けることのできる児童とは、総合的に自分のもっている知識や技能を働かせることのできる児童ととらえる。児童は、教科等で様々な知識や技能を学習してきている。しかし、それらは、実生活の中では活用されていないことも多い。それは、その知識や技能が定着されていないか、様々な場面で使えることに気付かなかつたりするためである。そこで、総合的な学習において、教科等の知識や技能を思い出す活動を取り入れることにより、教科等と総合的

な学習が相互に補完されるべきものであることに気づき、自分のもっている知識や技能を活用することができると思う。また、総合的な学習でのそれらの活用は、教科等の知識や技能をより定着させると考える。例えば、「ある人に話を聞きたいけれど、どのように聞いたらよいか分からない。」という児童が国語科のインタビューの仕方を思い出すことができれば、スムーズに活動が行えると共に、インタビューの仕方を定着させることにもなるであろう。そして、教科等の知識や技能は、総合的な学習や実生活の中で生かすことができることに気付くであろう。教科等と総合的な学習の関係は、次の資料1のように相互関係のあるものとしてとらえる。

資料1 教科等と総合的な学習の関係



(2) 「教科等の知識や技能を思い出す活動」とは教科等の知識や技能を思い出す活動とは、教科等と総合的な学習との関連を意識していなかった児童に、教科等で身に付けた知識や技能、既習の学び方を意識させ、それを課題解決に役立てようとするものである。

課題設定の過程では、写真や教科書を使って、興味付けを図った後、「あゆみシート」(資料2)を用いてこれからの学習でその力を使えそうかどうかを考える活動を行う。

資料2 あゆみシート

あゆみシート			
1. テーマに関係する学習内容 (覚えていない×)			
学年	教科・単元	学習内容	覚えている (総合の学習で使える) / 覚えていない× (覚えられない×)
1年	国語	「好きなものおしえて」	・相手によく分かるようにじゅんじよを考 えながら話す
	生活	「なにをそだてよ うか」	・大事なことを落とさないように聞く。
	算数	「楽しい絵画」	・野菜づくり(きつまいも) ・ようち園の子とおいもパーティー ・絵画の用意のしかた・配り方・えいよう
2年	国語	「今週のニュース」	・相手や目的を考えながら書く。
		「もうすぐ夏休み」	・かんたんな題立を考えて書く。

「あゆみシート」は、単元にかかわる知識や技能を洗い出したものである。単元「見つめよう！わたしと食」に関連して、栄養に関する内容は保健から、食材(野菜)に関する内容は生活科や理

科から、給食指導に関する内容は学級活動から、話し合いや表現活動に関する内容は国語から、計算や表やグラフの表現に関する内容は算数から学習内容をピックアップした。このシートを用いることで、総合的な学習と教科等の学習は、相互に関連し合っていることを児童に意識させ、総合的な学習で教科等の知識や技能を使っていこうとする意欲をもたせたい。

課題追究の過程では、課題追究の方法やまとめる方法にかかわる学び方を思い出す活動を行う。今までに経験した方法や知っている方法を出し合い、必要に応じて既習の学び方をまとめた「ぐんぐんシート」(資料3)を参考にしながら課題追究やまとめる活動を行う。

資料3 ぐんぐんシート

インタビューをしよう 3年 国語 光村 上81ページ

インタビューとは...
直接、人に会って知りたいことをたずねることです。

インタビューするとき注意すること

- ・ だれに、どんなことをたずねるのかを考えて決める。
- ・ インタビューをしたい人に、お願いをする。
- ・ 相手の都合に合わせて日時を決める。
- ・ ていねいな言葉づかいで話す。

インタビューのしかた

あいさつをして、名前を言う。
何を聞きに来たのかを伝える。
前もって考えておいたことを、順序よくたずねる。
相手の話を注意深く聞き、分からない時は、話の区切りで聞き返したり、質問したりする。
大事なことはメモにとる。
ていねいにお礼を言う。

「ぐんぐんシート」は、児童の実態や既習の学び方を考えて「図書室で本をさがそう」「インタビューをしよう」など15枚を用意した。児童は、このシートを用いることで、調べ方やまとめ方がより明確になり、今まで経験のなかった方法にも気付くことができると思う。

そして、まとめるの過程では、単元全体を振り返り、教科等との関連を思い出す活動を行う。学習の様子を活動の流れに沿って全体で振り返り、一人一人が「ふりかえりシート」(資料4)を用いて教科のどの知識や技能を使ったかをチェックする。どの場面でどんな力を用いてきたのかを明確にすることで、教科等と総合的な学習の関連に気付き、他の学習でも自分のもっている力を有効に使っていこうとする態度の育成につながると考える。

資料4 ふりかえりシート

4年さくらタイム 10

「見つめよう！わたしと食」

4年 組 名前 _____

ふりかえりシート

「見つめよう！わたしと食」を学習して

「見つめよう！わたしと食」の学習は、教科の学習のどんなことを参考にしましたか。(さくらの学習で使った)

学年	教科・単元	学習内容	さくらの学習で使った
1年	国語	「好きなものおしえて」 「みんなに知らせたい」 ことば	・ 相手によく分かるようにじゆんじよを考えながら話す。 ・ 大事なことを落とさないように聞く。
	生活	「なにをそだてようか」 「楽しい給食」	・ 野菜づくり(さつまいも)・おいもパーティー ・ 給食の用意のしかた・配り方・えいよう

どのぐんぐんシートを使いましたか。(さくらの学習で使った)

調べる学習	まとめる学習	発表
図書室で本をさがそう	考えを整理しよう	よりよい文章にしよう
インタビューをしよう	ヒラガで発信しよう	調べたことを発表しよう
インターネットで調べよう	表に整理しよう	話す・聞く
見学・観察をしよう	レポートを書こう	調査取りメモを書こう
電話で話を聞こう	新聞を書こう	
デジカメで写真を撮ろう		

そのた、教科の学習のどんな力を使いましたか。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対象	桐生市立桜木小学校 第4学年 46名
単元名	見つめよう！わたしと食
期間	平成17年9月～11月(全29時間計画)
抽出児	【A児】総合的な学習に対する興味が薄く、課題解決には消極的になりがちである。教科等の知識や技能を使って、課題解決をすることで、苦手意識を取り除き、解決した喜びと自信を味わわせたい。 【B児】教科等の知識や技能がよく身に付いているが、その教科だけの知識や技能となっていて、実生活で活用しようとする態度に欠ける面が見られる。総合的な学習において教科等の知識や技能を活用できることに気付かせ、進んで活用しようとする態度を育てたい。

(2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	課題設定の過程において、今までに食生活にかかわるどんな学習をしてきて、どんな知識や技能を身に付けてきたかを「あゆみシート」を用いて思い出す活動を取り入れたことは、自分のもっている知識や技能に気付き、解決の見通しをもつために有効であったか。	観察 学習シート
見通し2	課題追究の過程において、「ぐんぐんシート」を用いて、既習の学び方を思い出す活動を取り入れたことは、多様な追究方法から自分なりの方法を見付け、主体的に課題追究に取り組むために有効であったか。	観察 表現物 学習シート
見通し3	まとめるの過程において「ふりかえりシート」を用いて、教科ではぐんぐんどんな知識や技能を用いたのかを思い出す活動を取り入れたことは、教科等で身に付けた知識や技能を進んで総合的な学習に生かしていこうとする態度を育成するのに有効であったか。	観察 学習シート

研究の展開

1 単元名「見つめよう！わたしと食」

2 単元の考察

本単元は、本校の内容系列表（資料編）の領域「生命・健康・食」の内容項目イにかかわる内容である。

今日の社会環境の変化、生活環境の変化は、児童の心身の健康状態に質的变化をもたらしている。偏食、過食、欠食、孤食、深夜食といった食生活や食習慣の乱れなどから、肥満や高血圧、糖尿病、動脈硬化といったいわゆる生活習慣病が、子どもたちの中にも見られることも問題視されている。これら生活習慣病の予防のためには、子どもの頃からよい食習慣を身に付けること、食に対する正しい知識と豊かな心をはぐくむことが大切だと考える。

本学年の児童の給食時の様子を見てみると、好き嫌いがあり好きなものはおかわりをするほどたくさん食べるが、嫌いなものには手も付けないという児童や友達とのおしゃべりに夢中になってしまうために食事をする時間がなくなり残してしまう児童が見られる。また、好きなおやつは、甘い飲み物やスナック菓子が多く、栄養や体への影響を考えておやつを食べている子どもは、ほとんど見られない。そこで、「食」という子どもたちにとって身近で大切なテーマを通して、今までの自分を振り返って食生活を見直すことで、自らの健康づくりに配慮した食生活を実践できる児童をはぐくむことになると考え、本単元を設定した。

3 目標及び評価規準

<p>目標</p> <p>毎日の食事が、健康な体をつくるために大切なことに気付き、自分の食生活を振り返り、自らの健康づくりに配慮した食生活を実践できる態度や能力を育てる。</p>
<p>評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで資料を収集したり、食についての調査や調理を行ったりして意欲的に学習しようとしている。 (関心・意欲・態度) ・食事が、健康な体をつくるのに大切なことに気付くことができる。(思考・判断) ・食に関わる課題について選んだ方法で追究し、分かったことを目的に応じた方法で表現することができる。(技能・表現) ・主食、主菜、副菜を組み合わせた栄養バランスを考えた食事の取り方がわかる。(知識・理解)

4 指導と評価の計画(全29時間予定)

過程	時間	主な学習活動	支援および指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準 関・意・態 思・判 技・表 知・理	評価方法
課題設定	4	<p>1. 全体のテーマを知る。</p> <p>2. 自分の選んだメニューについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな昼食をカードで選ぶ。 ・選んだ物、理由を書く。 ・栄養士から栄養と体の関係について話を聞く。 ・養護教諭から生活習慣病について話を聞く。 	<p>子どもたちが選びやすいように、近くのスーパーやコンビニ等で売っている身近な食品のカードを用意する。</p> <p>予算内で選ぶことを意識できるように、計算枠のあるワークシートを用意する。</p> <p>一人で計算できない児童には、教師と一緒に計算をする。</p> <p>栄養士や養護教諭には、専門家として、食品には栄養の違いがあること、添加物の必要性と問題点、食物と生活習慣病の関係について話してもらう。</p>	<p>意欲的に昼食を選び、感想をもつことができる。</p> <p>栄養と体は関係のあることを知る。</p>	学習シート観察
	2	<p>3. 自己課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウエビングを行い、どんな課題があるか考える。 ・全体でウエビングを行い、自己課題を決定する。 	<p>個人でウエビングした後に、集団でウエビングすることで課題が広がるようにする。</p>	<p>食についての課題を考えることができる。</p>	学習シート

		見通し 1			
	1	4. 教科等で身に付けた知識や技能を活用して活動計画を考える。 ・「あゆみシート」を用いて教科等で身に付けた学習内容を思い出す。 ・グループで活動計画を立てる。	テーマに関連する教科等で身に付けた知識や技能を思い出すことで、それらを積極的に用いて課題解決ができるようにする。	教科等の知識や技能を活用しながら、課題解決の計画を立てることができる。	学習シート 観察
		見通し 2			
課題 追 究	3	5. グループの課題について追究する。 ・図書、聞き取り、インターネットなどによる課題追究をする。	必要に応じて「ぐんぐんシート」を用いて、各教科の知識や技能を活用できるようにする。 養護教諭や栄養士、図書館補助員との連携を行い、児童の求める情報が得られるよう支援をする。	各教科の知識や技能を活用しながら課題追究をすることができる。	学習シート 観察
	3	6. 課題追究して分かったことを一番効果的だと考えた方法でまとめる。 ・図表やポスター、紙芝居や劇などにまとめる。	必要に応じて「ぐんぐんシート」を活用して、多様なまとめ方や発表の基本パターンを知らせる。	調べて分かったことを目的に応じた方法で表現することができる。調べて分かったことの伝え方を工夫することができる。	表現物 観察
	2	7. 分かったことを学年の友達に発表会で知らせる。 ・発表内容、伝え方等を相互評価する。	子どもたち同士のアドバイスの場を設定をする。	聞き手に分かるように調べたり、体験したりしたことを発表することができる。	観察 アドバイス カード
	5	8. 給食について追究する。 ・給食センターを見学して給食ができるまでを知る。 ・食材、献立の立て方、給食を作るとき苦労や願いについて知る。 ・食材を作っている地域の農家の話のビデオを視聴し、どんな願いをもって野菜を作っているのかに気付く。	給食センターの見学を通して、普段何気なく食べている給食がどのような手で、どのように作られているのかに気付くようにする。 栄養士の方から、どんなことを考えたり、注意したりして給食の献立を作っているのかを話してもらい、作っている人たちの願いに気付くようにする。 給食の食材の野菜農家の方を取材し、野菜作りへの思いを収めたビデオを撮影しておく。	給食が作られるまでを知り、かかわっている人の思いに気付くことができる。	学習シート 観察
ま と め	8	9. グループ毎に献立を考え、昼食を作る。 ・献立を立てる。 ・栄養士に診断してもらい修正する。 ・食材を選んで買う。 ・昼食を作る。 ・昼食を食べる。 ・後かたづけをする。	今までに学習した知識を生かして、献立を立てられるよう、栄養バランスをチェックする学習シートを用いる。 献立の修正は、子どもたちの考えを生かして最低限にとどめる。 食材選び、昼食作り、片づけは、保護者に協力してもらい、安全面に配慮する。	栄養、予算、調理法、調理時間などを考えて献立を考えている。	学習シート 観察
	1	見通し 3			
		10. 単元の振り返りをする。	「ふりかえりシート」を活用し、教科等との関連に気付くようにする。	活動を振り返り、自分や友達によさや成長、教科等の知識や技能の活用に気付くことができる。	ふりかえり シート

研究の結果と考察

1 課題設定の過程において、今までに食生活にかかわるどんな学習をしてきて、どんな知識や技能を身に付けてきたかを「あゆみシート」を用いて思い出す活動を取り入れたことは、自分のもっている知識や技能に気付き、解決の見通しをもつために有効であったか

初めに、「今までにどんな学習をしたか。」と尋ねると子どもたちからは、「よく覚えてない。」「忘れちゃった。」という答えが返ってきた。そこで、1年生や2年生で使用した教科書や学習の

様子が分かる写真を提示すると、子どもたちは、「それ、やった。」「 を勉強した。」「字が大きい。」と懐かしそうに教科書を見たり、「あっ、ちゃんだ。」「思い出した。」と写真に見入ったりしていた。

次に、『あゆみシート』も使って、一つ一つの学習内容を追っていき、それらの知識や技能が総合的な学

資料5 「あゆみシート」にチェックする児童



気付いていった。そして、『インタビューをしよう』の『ぐんぐんシート』を取り、インタビューの仕方を確認していた。A児のグループは、まとめ方を表に決め

た。その理由を尋ねると「3つの違いが分かるようにしたかったから。」ということで、見た人に分かりやすいように大きく絵を描いていた(資料8)。

資料8 A児のグループの表現物(図表)



B児は、グループのテーマ「給食の残飯がどうなっているか」を追究するために、初めにインターネットで調べることにした。しかし、思うように情報を得ることができず、次に本で調べてみたがどこにも載っていなかった。行き詰まってしまったB児のグループに「みんなは、給食の残飯ってどうなっていると思う?」と問いかけてみた。すると、「燃やす。」「ゴミ処理場へ持っていく。」と答えが返ってきたので、「じゃあ、給食の残飯のことを一番よく知っている人に聞いてみたら?」と投げかけると「調理場に行って聞いてこよう。」「まず電話で聞いた方がいいよ。」と意見が出され、電話で話を聞くことになった。そこで、『電話で話を聞こう』の『ぐんぐんシート』を使って、電話での話し方を思い出し、聞きたいことを紙に書き出した。B児は、友達を相手に何

資料9 電話で話を聞く児童



回も練習してから、電話を掛けて話を聞いた(資料9)。残飯はどうなるのか、お金は掛かるのか、だれが運ぶのかなどの質問を手際

よくすることができ、受話器を置いた後の「あー。緊張した。」という顔は、満足した様子であった。そして、残飯を無くしたいという気持ちが強くなったB児のグループは、自分たちの給食の残飯の

様子を写真に撮ってみんなに訴えることになった。そこで、今度は『デジカメで写真をとろう』の『ぐんぐんシート』を使い、デジカメの使い方を練習していた。そして、分かったこと、みんなに伝えたいことを大きな新聞にまとめることができた(資料10)。

以上の児童の行動観察や表現物の分析、学習シートの分析から、課題追究の過程において『ぐんぐんシート』を用いたことは、今まで知らなかった調べたりまとめたりする方法に気付いたり、その基本パターンを知ったりすることができ、主体的に課題追究に取り組むために有効であったと考える。

資料10 B児のグループの表現物(新聞)



3 まとめ過程において『ふりかえりシート』を用いて、教科で培ったどんな知識や技能を用いたのかを思い出す活動を取り入れたことは、教科等で身に付けた知識や技能を進んで総合的な学習に生かしていこうとする態度を育成するのに有効であったか

初めに、どんな学習をしてきたのかを思い出すことができるように、スライドを見ながら、学習の振り返りを行った。教科の学習のどんなことを参考にしたのか、どの『ぐんぐんシート』を使ったのかを自己評価した結果は、資料11のとおりである。その結果を見ると、子どもたちは、課題解決をするときに教科等の学習内容を積極的に使っていたことが分かる。そして、表の内容以外にも「計算の力を使った。」「図工の絵を描く力を使った。」と、教科と総合的な学習のかかわりに気付いた児童も見られた。

A児は、この総合的な学習で使った学習内容として、国語で身に付けた『話す・聞く・書く』『本のさがし方』の項目に印を付けた。単元を学習する前は、「総合的な学習は、何を調べたらいい

いのか分からない。」と見通しをもって学習することを苦手としていたが、単元学習後の自己評価では「自分の知りたいことを調べることができた。」と変容する様子が見られた。そして、『ぐんぐんシート』があったので調べ方がよく分かった。国語の力をたくさん使えた。次は、他の教科の力も使えるようにがんばりたい。」と書いている。

資料11 教科等の学習内容を参考にした人数と「ぐんぐんシート」を使った人数・A児とB児の様子

教科等の学習内容						
学年	教科・単元	学習内容	参考にした(46人中)	A児	B児	
1年	国語	「好きなものおしえて」「みんなに知らせたいこと」	・相手によく分かるようにじゅんじゅんを考へながら話す。 ・大事なことを落とさないように書く。	3	9	
	生活	「なにを育てようか」	・野菜づくり(まごまいし)・おいしバーティー		1	
	学活	「楽しい給食」	・給食の用意のしかた・配り方・いりよう	3	4	
2年	国語	「今週のニュース」	・相手や目的を考へながら書く。	2	0	
		「かんざつ名人になろう」	・かんざつを多めにしつづけることと必要なことがらを集めて書く。	2	4	
		「もうすぐ夏休み」	・かんたんな絵画を考へて書く。	1	6	
生活	「とれたてのやさい」	・野菜づくり(ミニトマト・きゅうり・なすなど)		4		
3年	国語	「インタビュー」	・インタビューの方法	1	4	
		「せつめい書を作ろう」	・書く必要のあることだけをしょうしゅうしたり、せんたくしたりする。 ・まとまりごとに小見出しをつけて書く。	2	5	
		「図書室で本をさがそう」	・本をさがす。本の中をさがす。	3	0	
	算数	「表とグラフ」	・表やばうグラフの表し方	1	2	
	理科	「植物のそだち方」	・オクラやホウセンカの観察		1	
	保健	「毎日の生活と健康」	・けんこうな体	2	9	
4年	国語	「かむことの力」	・かむことの大切さ	7		
		「手紙を書く」	・手紙を書くときやめて名を書くときやまとまり	2		
		「新聞記者になろう」	・新聞の書き方	1	4	
		「伝言はまちがえず」	・電話でまちがえずに伝える方法	1	0	
		「伝え合うということ」	・クラスの人たちに自分の考へが分かるようにして話す。 ・話の中心に集めて聞き、自分の感想をまとめる。 ・よく聞かせる大きさやはやさで話す。	3	6	
	算数	「しりょうの整理」	・表の表し方	7		
理科	「生き物をしらべよう」	・ツルレイシの観察	1			
保健	「肩こりやめよう」	・成長に必要な栄養	2	8		

ぐんぐんシート									
調べる学習			まとめる学習			発表			
人	A	B	人	A	B	人	A	B	
図書室で本をさがそう	15			5		よりよい文章にしよう	4		
インタビューをしよう	3			0		調べたことを発表しよう	10		
インターネットで調べよう	29			5		話す・書く	11		
見学・観察をしよう	6			4		聞き取りメモを書こう	8		
電話で話を聞こう	6			9					
デジタルカメラで写真を撮ろう	5								

B児は、グループでの話し合いでは、積極的に意見を言い、友達の意見をまとめようとする姿が見られた。買う材料を計画する場面やスーパーで買い物をする場面では、予算内で材料が買えるかどうかを自分から進んで計算をして確かめていた。また、昼食づくりの場面では、野菜を切ったり、味付けをしたりして積極的に調理に携わっていた。その意欲的な活動の様子は、友達からも認められ、「計算をしてくれて助かった。おかげでまちがえずに買うことができた。」「いっしょけんめいに野さいを切ってくれたので、おいしいみそしるができた。」という評価をもらっていた。B児自身は、『話す・聞く・書く』『インタビューの方法』『新聞の書き方』『電話で伝える方法』などの国語の力、『健康な体』『成長に必要な栄養』の保健での学習内容を使って学習したと振り

返り、「総合的な学習の勉強に他のいろいろな勉強が役に立つとは思わなかった。これからも知っていることをどんどん使っていきたい。」と書いていた。自分でも「楽しく学習できた。」「進んで調べたり、作ったりできた。」などの自己評価項目すべてに「大変よくできた」をつける程、B児にとって充実した学習になったと思われる。そして、教科等で培った力を今後の生活の中で生かしていこうとする気持ちが芽生えたのではないかとと思われる。

以上の児童の行動観察や学習シートの結果から、『ふりかえりシート』を用いて教科のどんな知識や技能を使ったのか評価する活動を取り入れたことは、その教科だけでなく生活の中で使っていることを認識することができ、他の場面でも生かしていこうとする態度を育成するのに有効であったと思われる。

研究のまとめと今後の課題

初めは、教科等の知識や技能を関連させることができなかつたり、総合的な学習や他の教科と関連しているということに気付いていなかったりする子どもたちが多く見られた。そういう子どもたちに、総合的な学習に教科等の知識や技能を思い出す活動を取り入れたことは、総合的な学習と教科等を関連付けるためには、有効であったと考える。

具体的に関連させる手だてとして、カードや支援の工夫のほかにも効果的なものがあるのか模索している。総合的な学習だけでなく、いろいろな教科の中で、教科等の知識や技能は関連していること、そして身に付けた力をいろいろな場面で生かしていくことが生きる力となるということ子どもたちが実感できるような指導をしていきたいと考える。

参考文献

- ・嶋野 道弘 著 『評価から考える総合的な学習の時間』 教育報道出版社(2003)
- ・小島 宏・寺崎 千秋 編 『総合的な学習の評価計画と評価技法』 明治図書
- ・『食農教育2005年4月 40』 農山漁村文化協会(2005)